

モザイク画通じ 弘前と仏交流を

仏果樹庭園 ガルフさん 市長に作品紹介

「弘前×フランス」一環として行われるトークセッションに参加するため、フランスの最高経営責任者（CEO）であるパスカル・ガルフさんが26日、弘前市役所を訪問し、葛西憲之市長とリンゴを使ったモザイク画の企画などについて実現の可能性を探った。

「弘前×フランス」一環として行われるトークセッションに参加するため、フランスの最高経営責任者（CEO）であるパスカル・ガルフさんが26日、弘前市役所を訪問し、葛西憲之市長とリンゴを使ったモザイク画の企画などについて実現の可能性を探った。

26日はガルフさんと、親交がある同市の佐藤袋店の佐藤義博代表取締役が市役所を訪問。ガルフさんはリンゴを使ったモザイク画を制作しており、葛西市長に作品を写真や動画などで紹介した。

ガルフさんは「弘前とフランスの交流を通じて、ぜひ弘前でモザイク画をつくってみたい。大きさやモチーフもさまざまなものが考えられる」と話した。



弘前市役所を訪問し、葛西市長（右）と懇談したガルフさん（右から2人目）

葛西市長は「とても面白い企画。実現できるといい」と意欲を語った。（山本恵子）

この画像は当該ページに限って陸奥新報社が利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。